

だと思われるので、これによつてさらに補強し、中国の資料を使いこなして、この研究をさらに大きく前進させたいものである。(四六・九・二三)

註 ここに出でくる著者の著書名は次の通りである。

N・P・シヤスチーナ「十七世紀の露蒙外交関係」モスクワ一九五八

I・Ya・ズラートキン「シユンガルハン国史」モスクワ一九六四

E・M・ザルキンド「ロシアのブリヤーチヤ併合」ウランウデ 一九五八

ソ連・蒙古人民共和国科学アカデミー共編「蒙古人民共和国史」モスクワ一九六七

(Бадиг Александрович Александров, Россия на Дальнемосто-
ных рубежах (эпоха полонина XVII в.) Москва 1969)

レッシング・ウェイマン共訳

ケエトプジエ・仏教タントラ概説

川崎 信定

本書はツオンカプの高弟であり後にパンチュエン・ライ第一世の称をもつて知られる mkhas grub rje dGe legs dpal bzang po (1385~1438 A.D.) の著わした浩瀚なる仏教タン

トラ概説 (*rGyud sde spyihi nam par gZag pa rgyas par brijod* Cf. 東北番号 No. 5489) の翻訳である。訳はカルフォルニア大学の蒙藏学者故 F. D. Lessing とその薫育をうけたロロムビア大学の仏教学教授 Alex Wayman 両氏の共訳の形をとり、Labrang (Bla bran bkra sis khil?) 版を底本に Lhasa 版を照合したとされるチベット文テキストと対訳英文に加えて、ウェイマン氏の手になるタントラ文献の典拠を示めず脚注が付されている。

全体は九章から構成され、第一章に世尊成道に関する小乗と大乘(波羅蜜乘と瑜伽タントラおよび無上瑜伽タントラ)の解釈が示めされ、第二章においては転法輪に關説して波羅蜜乘の解釈を初・中・後の三種に分類し、それぞれ所依の經論名を挙げてエンサイクロペディックに論じる。注目すべき記述の若干をあげるならば、まず如来藏思想に關して 'Johan. pa' と自派 dGe lugs pa に見解の差異と所依の經論に異同のあること (pp. 51—53)、現存する最古のチベットの經錄 *Idan dkar ma* (東北 No. 4364) に加えて *hPhan than ma* と *hChin bu ma* の二經錄が存在し原著者が依用したような記述が存すること (p. 84)、*Bhāvavivēka* には從來知られている著作の他にインド外教および小乗十八部について八十章に亘る大部の著作が存したが外教に關するものはチベット訳がなされなかつたと言及している点 (p. 88) 等

ある。この他、因明・声明・医明等の基礎学における基本文献の名を列挙し、当時のチベット仏教学の状況を知る上に好箇の資料を提供している。なお脚注 (p. 94) においてウエインマン教授が Bhavaviveka 作とされる *Madhyamakaratna-pradīpa* の中に「この内容について詳しくは規範師 Candakīrti の作られた *Madhyamakapārasaṅkha* および拙著 *Tarkajalā* を参照のこと云々」とあるのに基づいて Candakīrti と Bhavaviveka の同一世代説をたてているのは注目すべきであろう。

以上二章において大乘波羅蜜乗までの頭教の解説を了え、第三章以下において本書の眼目たる大乘秘密部・タントラ概説が展開される。すなわち第三章・転法輪の密教的解釈総説、五部五仏の思想、第四章・所作タントラの思想的立場と実践、第五章・行タントラ(有相三昧と無相三昧)、第六章・瑜伽タントラと四印の思想、第七章・無上瑜伽タントラとその父・母の二分類法、父・母・不二の三分類法、第八章・無上瑜伽におけるマンダラの理論と実践的意義、第九章・秘密奥儀伝授作法、EYAMの秘儀釈、等々である。以上の論述においてケトブジュは四種タントラそれぞれに関して所依の典籍を挙げ、さらに先行する同様のタントラ分類法、殊にプトン (Buston Rin chen grub 1289-1364) 師の説を引用し、それに対比して祖師ツォンカムの釈を、主として *sNags rim*

chen mo に基づき祖述敷衍する体裁を採っている。アチーシャの *Bohīnār-gaṇḍhāpāṇīka* にあがる七分法をはじめとする諸種のタントラ分類方法はそれがそのままにチベット密教の発展を史的に解明する重要な鍵となっており、それぞれの教理内容、教判の立場および伝承の系譜について体系的かつ組織的研究の必要性はすでに指摘されてきた(羽田野伯猷「Tantric Buddhism における人間存在」東北大学文学部研究年報第九号(1988)。そしてその際も、とても重要な意味をもつものがプトンの「タントラ概論」三部作 (*rgyud sde spyi'i nam gshag* 東北番号 Nos. 5167~5169) である。ケトブジュの本書もプトン師への敬崇とその強い影響の中にありながらも自宗の独自の立場の確立に努める。特に顯著なのは無上瑜伽タントラにおける方便 \parallel 父、般若 \parallel 母、双入 \parallel 不二の三細分法を排して、父・母の二細分法を自宗の立場とし、双入タントラとしての *Kalacakra-tantra* を独立した第三最高の範疇として認めない点であろう (pp. 250~269)。そして *Guhyasamāja* の *rgyud phyi ma* (東北 No. 443) に説く「般若と方便の等入 (*prajñā-upāya-samāpatti*) が無上瑜伽タントラの瑜伽である。」との一文を権威として引いて無上瑜伽タントラはすべて了義において双入不二であり、楽と空との不可分の合一を境界とする (p. 263) と主張する。プトン師と同じく、ケトブジュの主著が時輪に関するもの

(東北 No. 5463) であり、後のバンチェン系統における時輪の重要度から考えて即断することは避けたいが、本書の叙述からみるかぎりでは *Guhyasamāja* と比して *Kalacakra* の比重が軽く扱われている (p. 259, p. 261, p. 329) ということがよくわかる。

タントラの四分法はサキヤ派においてもよくかんに論じられ (Kun dgah stin po, 1092~1158: *rgyud sde nram gshag*; Kun dgah bzhi po, 1382~1456: *stpyod pañi rgyud spyi'i nram par gshag pa* (サキヤ全書) 所収参照) 時代的でも先行するものがあるが、これらのサキヤ論書および上述の「タン・タ・ヘンシ」の著作における論点の二つは「三薩埵果積」(Cf. *Guhyasamāja* Chap. XII) の「モーガ」の過程がある。すなわち行者が自己自身を三昧耶薩埵 (*samayasatva*) として観想し、これをさらに知慧薩埵 (*janasatva*) として観想し、さらに累積的にこれを三摩地薩埵 (*samadhisatva*) として観想するという過程を通して金剛薩埵の化身・受用身・法身を享受し帰一絶対となる観法 (pp. 163~172; pp. 234~237; pp. 296~297) を行タントラ・所作タントラのうちに属せしめるかたについての論議は、ウエイマン氏がその詳細な脚註 (pp. 162~164n; pp. 296~297n) にきざり記述せしむべく修法実践の知識を背景として要求するものであり、タントラ文献を理解する上での難かしさを示す箇所である。

チベット仏教タントラに関しては洋の東西を問わず多分の *myification* と独断とを含んだ解釈が先行し、地道なテキストの研究出版が疎かにされてきたきらいがある。ウエイマン教授が本書のような重要文献を全訳して世に問われたことはこれを基盤に今後批判的研究が行われることを可能としたものであり、学界に益するところ大であるといわねばならない。ただ本書に附せられた序文は短かく、ケートンジエおよびその著作についての簡単な紹介に終わっているのは残念である。ウエイマン氏がいかなる視点にたつてかかる密教文献を読み解釈するかを知るには近く出版を予定されていると同氏の *Guhyasamāja* の翻訳と研究論文を俟つべきであろう。

本出版のラキストを東洋文庫所蔵のタシルンポ版と照合すると *pa—ba*, *zig—oig* のような出入を別としても、以下の二つを相違があり、タシルンポ版を採用すべき箇所も少なくない。数字はウエイマン氏出版本のページ・行数を示し、括弧内がウエイマン氏本の読みである。

22.25 *bzla bañi* (*hdas pañi*); 26. 12 (*ho na ji har bgyi zés gsol pas* 欠文); 26. 13 *bzang nas* (*bzad nas*); 26. 16 *rim can du* (*rim can*); 28. 15 *thog tu* (*thob tu*); 34. 12 *rtse mor* (*rise mo*); 34. 13 *mdzad pa* (*mdzad*); 38. 28 *ses par bya* (*zés par bya*); 40. 18 *hphoñs pas* (*hphans pas*); 42.

8 legs par byoñ tam(legs byoñ tam); 42. 12 gsal pags pañi (gsal bags pañi); 42. 19 lus chos gos nür (lus chos gos dur); 44. 21 byañ chub sems dpañ (byañ chub sems dpañi); 48. 20 hdus ma byas kyi mtshan (hdus ma byas mtshan); 54. 20 sgra byuñ ba (smra byuñ ba); 56. 27 *zés* zer ro (*zés* pahö); 58. 18 gos can la gtod cig (gos can la gtoñ cig); 58. 24 smros zig (smras zig); 60. 8 rab tu phyuñ zñh (rab tu byuñ zñh); 60. 29 smros sig (smras sig); 62. 3 & 7 guñ pa (guñ ba); 62. 4 bdag mya (bdag bya); 62. 24 bsdu ba gñis pa (bsdus gñis pa); 68. 6 snam phran (snam phrin); 70. 5 bsád pa dan hgal zñh (bsad dan hgal zñh); 72. 19 sgra mdo (sgro mdo); 72. 27 hon (ho na); 74. 7 yar no mar no (yar do mar do); 74. 11 sgra šes pañi (sgra *zés* pañi); 82. 27 hduñ ba (hdul na); 86. 11 drans hois dgos pa (drans hoñ dgos pa) 88. 19 thun du (thun nu); 88. 21 legs ldan hbyed kysis (legs ldan hbyed); 88. 24 ñan thos sde pa bco brgyad (ñan thos sde bco brgyad); 88. 28 hphags pa lhas (hphags pa lha); 90. 12 gciig gis ma chog pa (gciig gis mchog pa); 92. 4 de lha ka (de lara); 98. 13 spyod pa ston pañi cha (spyod ston pañi cha); 102. 3 lahan htraho (lahañ hgrho); 106. 19 zla ba zág bdun na (zla ba zig bdun na); 106. 25 gzunš cho ga (gzunš chog); 112. 4-5 (nor

rgyun du gzung pañi dza-mbla-las gtsö byas pañi gnod sbñin pho dgu dan) 重複; 116. 6 gzunš kyi tshing (gzunš kyi cho ga); 116. 21 yod pa hgyur khyad yin zñh (yod pa hgyur khyad zñh); 116. 26 gzunš la tshan pa (gzunš tshan pa); 118. 26 mi yul na mi bzugs (mi yul ni mi bzugs); 124. 22, 126. 2 po-ta-lar (bo-ta-lar); 126. 7 phyag hshal (phyag hshol); 126. 7 rgya skad sor bzag du yod (rgya skad so bzad du yod); 128. 1 de gsum las med do (de gsum khas med do); 128. 8 (de de bzin gšegs pañi rigs som/rdo rjeñi rigs gañ yin btrag dgos pa zig gnañ yan/以上次文) bu ston rin po che . . . ; 128. 12 sa pan (sa pain)

喀 藏 之 佛 教 之 概 論 (p. 336) の rgyas par bñjod zin te
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十
 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十
 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十
 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十
 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十
 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十
 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十
 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

Mkhas grub rje's Fundamentals of the Buddhist Tantras, Rgyud sde spyiñi nam par gžang pa rgyas par bñjod, translated from the Tibetan by Ferdinand D. Lessing and Alex Wayman with original text and annotation, *Indo-Iranian Monographs* Vol. VIII, (1968, Mouton, the Hague, Paris).